

特集 消防の仕事を見てみよう

あやせの安全と安心を守る消防士たち



綾瀬市消防本部では、129人の消防職員が消防団と協力して、市民の皆さんの安全と安心を守っています。今回は、消防署で働く2人の若手職員が代表して、日々の仕事の内容ややりがいについて紹介します。消防本部では消防職員、消防団員、少年消防クラブ員も募集しています。まちの安全と安心を守る仕事に、一緒に携わりませんか。

消防総務課 ☎76・2112

災害時や救急時など、市民生活になくはない消防の職場でやりがいを持って働きませんか



消防総務課 総務担当総括副主幹 和田 敏宏

消防と聞くと男性の職場という印象を持つ方もいますが、決してそんなことはありません。全国で女性消防職員が活躍しており、本市消防本部では現在、5人の女性消防職員が、消防・救急・予防業務など幅広い分野で活躍しています。

2年に完成した新しい消防庁舎には、女性が安心して勤務できるように、女性専用の仮眠室や待機スペースなども完備しているので、女性も安心して働くことができる環境を整えています。消防職員は、市民の安全・安心を守る、

とてもやりがいと誇りを持てる仕事です。あなたもチャレンジしてみませんか。



消防総務課 総務担当副主幹 山本 晋一

消防士に求められる資質とは何でしょうか。新採用職員の教育などのフォローを担当する私が考える一番大切な資質は「綾瀬市は私たちが守る！」という強い気持ちです。災害現場などの過酷な状況で活動するためには、知識・技術・体力などさまざまな資質が求められますが、入庁してから訓練と経験を重ねることで養われていきます。

人口約8万4000人の小さな都市だからこそ、人と人とのつながりは、大都市にはない綾瀬ならではの大きな財産であり魅力であると思います。綾瀬の魅力と共に守り、安全・安心のまちづくりと一緒に取り組める方の応募をお待ちしています。

こんな活動もあります 消防団と少年消防クラブ

消防団 18歳以上で、本業を持ちながら「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護の精神に基づき、消防・防災活動を行っています。随時募集しているので、興味がある方は市ホームページをご覧ください。



消防総務課 ☎76・2113

少年消防クラブ 市内在住で新年度の小学4～6年生を対象に、家庭や地域への防火に対する基礎教育として、大人になってからも役立つ、消防や防災に関する知識・技能を身に付ける活動をしています。今年度の受付期間は8月31日までなので、興味がある方は市ホームページをご覧ください。



予防課 ☎76・2166

消防職員を募集しています

消防本部では、「綾瀬市は私たちが守る!」という強い熱意があり、市政への関心が高く、「安全・安心」のまちづくりに一緒に取り組むことができる方の応募をお待ちしています。共に消防の現場で働きませんか。

詳細は、6ページの「市職員募集」をご覧ください。職員課 ☎70・5607



住宅用火災警報器を点検しましょう 住宅用火災警報器は、火災初期に発生した煙や熱により警報音などで知らせてくれる警報器で、維持管理が重要です。住宅への同警報器の設置が義務化されて10年以上が経過しました。寿命

消防士ってどんな仕事?

消防士の仕事は、消火・救急・救助にあたる災害対応業務をはじめとして、災害による被害を未然に防ぐ火災予防業務や119番通報を受ける通信指令業務、本部業務など多岐に渡ります。

災害対応を行う職員は、各種災害出動に備えて、心構えや準備を怠りません。

新消防庁舎落成1周年記念としてYouTubeの動画を公開しています。市ホームページから見てください。

救急隊の1日



木川 彩 (3年目)

きかわ あや: 中学生だった2011年の東日本大震災をテレビで見た印象が強く残っています。それまでの夢だった看護師から災害時に人の役に立つ消防職を希望するようになりました。市内にある救急救命士の専門学校で資格を取ってから綾瀬市に入庁しました。体力に自信がない人でも訓練をすることで、自然と体力に自信がついてくるので大丈夫です。一緒に頑張りましょう。



勤務を終えた部隊から引き継ぎ後、救急出動に備え、車両点検と救急資機材の点検を行う。



その日の業務引き継ぎなどを行う署内ミーティングや無線の点検、救急訓練、事務処理などを行う。



昼食後、救急訓練や事務処理、体力訓練などを行う。



夕食後は訓練や勉強を行う。その後、夜中の出動に備え仮眠をとる。



昨年新しくなった消防庁舎は、女性職員がより働きやすい施設となりました。市民の方から「ありがとうございました」と感謝の言葉をいただいたときや、子どもたちが見学に来て「ユーチューブ見たよ」と言ってくれたときはうれしかったです。

消防隊の1日



蛭間 一樹 (3年目)

ひるま かずき: 野球をやっていたこともあり、私の長所である体力を生かせる消防の仕事に就きました。人の命に直接係わる仕事にやりがいを感じています。日々訓練するので体力がない人でも自然と向上していきます。仲間との連携やチームワークで仕事の大変さが緩和され、先輩からも多くのことを学んでいます。



勤務を終えた部隊から引き継ぎ後、各種出動に備え、車両点検や消防・救急資機材の点検を行う。



各種災害に対応できるよう、消火訓練や救助訓練、救急訓練などを行う。



緊急時に必ず使用できるように、市内各所にある消火栓・防火水槽の調査を行う。



夕食後、体力訓練や事務処理を行い、夜中の出動に備え仮眠をとる。



救急隊と一緒に出動し、私が処置した傷病者が病院で意識を取り戻したと聞いたときはうれしかったです。いつ出動要請がかかっても動くことができるように、常に緊張感を持って職務に専念しています。市民の安全と安心を守るために一生懸命がんばります。

は10年程度といわれているので、半年に1回程度を目安に自宅の同警報器の点検をしてみましょう。点検方法: 警報器の点検ボタンを押すか、点検ひもを引いて警報器の故障や電池切れがないかの確認をする 予防課 ☎76・2166